

人生を、

10ねんごのわたしへ とかいたぼくへ

10ねんもへんじをまたせて、ごめんなさい  
ちゃんとじゅうごでよんだのだけれど  
ずっとへんじをかかずにいました

おおきくなりましたか？

ええ、ずっとおおきくなりました

なにをしているか、たのしみです。

うん、ぼくはさっかになりました  
いまも、とつてもたのしいよ

ペン書きの下に薄っすら見える、消されてしまった鉛筆書きに

はやくおおきになりたいな って願ったぼくは

何をしたかったのかって 15歳<sup>じゅうご</sup>のぼくなら分かっただろうか

20才の ぼくへ と書いたぼくへ

もう 24 だけど、ちょっとだけだからゆるしてね  
成人式に行かなかったから、受け取ったのがおそくてごめん

ぼくは元<sup>げん</sup>気です。

そう、よかった、ぼくも元気だよ

おばあちゃんが 大好きです。

うん、ぼくも、やっぱり今も大好きだ  
それから、とりとめもない話の後に

あのね だれにも ないしょ だけどね

告白するような言葉を書いて、声にも出せないそんな秘密を  
ぼくなら聞いてくれるだろうって ぼくに託<sup>たく</sup>してくれたらしい

うん、うん、なあに、と頷いて

クッキー屋 さんになってみたいの ってはにかむぼくに

ああ、お母さんのクッキーが食べたいな、って  
大好きだったものを思い出すんだ

人生を、

5年後のぼくへ と書いたぼくへ  
これもまた4年も遅れて読みました  
同窓会なんて行かないって  
多分ぼくは分かってただろうから、きっと許してくれるけれど

今もまだ生きていますか

ええ、残念ながら、生きているからこれを読んでるよ

楽しいですか

うん、ぼくが想像していたよりずっと、ぼくは楽しく生きているよ  
そうだといい、と思います。

そっか、ありがとう、優しいね

小説を書くのは まだ好きですか

もちろん  
勿論、大好きだよ、それが仕事にもなったぐらいに

生きるのが怖い 学校が嫌い みんなが嫌い 楽しくない 誰もいない  
結婚なんてやだ たうひんな、ぼくを置いていのに  
あゝ、はやく、いんな、死んでしまえたら、ほんと 楽 だろうに

手紙だなんて言われども、もう書くことなんてほとんどないから  
いつかのぼくが、苦しみそうなことを 書いておきます

と、そんな、涙の跡でよれた手紙に ありがとう、と頷いて  
そうだね、そうだったね  
ぼくもね、辛かったことは、怖かったことは、忘れきれないから  
今更、苦しむことはしないけれど

じゃあ元気で、と最後に書き留めた す拗ね切っていた じゅうご15歳のぼくは  
けれどもそうして呪っていないと、呼吸ひとつも出来なかった

ひらがなだけしか書けないぼくに  
ひらがなで書いた手紙を封筒に

小さな夢を持ってたぼくに  
頑張れ、って書いた手紙を封筒に

ひねくれていた可愛いぼくに  
案外悪くないものだ、ってお節介した手紙を封筒に

糊付けをして、切手を貼って  
不義理をしていた差出人に 今更ながらに届けばいいと  
そんな勝手な願いを込めた

まだ何枚か、便箋があるけれど  
さあ、次は、幾つものぼくに手紙を送ろう